



## 2019年度 エプソン情報科学専門学校 実行計画 / 最終実績自己評価

学校長
印鑑省略

<b>学校評価項目</b>	<p><b>【学校創立の原点】</b></p> <p>設立趣意書より抜粋 エプソン情報科学専門学校が全人的教育により、高度情報化社会をリードする中堅技術者の育成に傾注できるように努力していく覚悟である。</p> <p>設置趣意書より抜粋 また、単に、技術的に優れた人材の育成だけでなく、教養科目の時間をできるだけ多くとり、心と技術の調和のとれた、全人的教育を目標とする。</p>	<p>教育理念とは 三心：通いあう心、信じあう心、ひたむきな心 三共：共鳴、共感、共働（協働）の感性 三学：自学、究学、徹学の態度</p> <p>教育方針とは 1. 通いあう心、信じあう心、ひたむきな心 の育成 1. 共鳴、共感、共働（協働）の感性 の育成 1. 自学、究学、徹学の態度 の育成</p>	<p><b>【長期ビジョン】</b> 社会人基礎力と専門性を有し、社会になくなくてはならない人材を育成し続ける</p> <p><b>【中期基本方針（2018～2020）】</b> 1. セイコーエプソンと密接に連携して、最新の実務知識、技術、技能を身につけられる実践的な教育を目指す。 2. 生き残りをかけた再編を、確かな実績によって足場固めとし、経営の自立、好転を目指す。</p>
---------------	---	---	---

分担	学校評価・項目	No.	推進項目	到達目標（期待される成果）	実績 および 最終自己評価
共通	④学修成果	1	退学者の削減	目標：昨年実績以下 チャレンジ目標：退学者ゼロ	昨年度に対して、大幅に削減。学科長およびHR長によるサポートが効果をあげている。 ◎
	⑧財務	2	経費削減・ムダの排除	予算目標の達成	収支ともに予算内で目標達成の見込み。 ○
	②学校運営	3	「職業実践専門課程」の定着化	文科省(長野県代行)によるフォローアップ審査の合格	文科省のフォローアップ審査、指摘がなく、合格。 ○
	②学校運営	4	学校評価の向上	前年度評価点以上を目指す	中間評価では3.4ポイントと0.1ポイント悪化。次年度に向けて改善する。 △
	②学校運営⑥教育環境 ⑨法令等の遵守	5	遵法対応・安全衛生管理 環境活動の強化	問題を発生させない	遵法上ほか大きな問題なし。 施設環境面では、外壁塗装および屋上防水工事施工、全トイレの洋式化、各教室プロジェクトの更新完了。 ○
教務部	③教育活動	1	「5年後10年後に会社になくなくてはならない人材」 を目指した育成	追試験件数前年度以下、A評定率前年度以上  グループワークを充実し目標達成に役立つ計画力と協調性を身に付けさせる	追試験件数・減増、A評定率・昨年と変わらず。追試験件数は減増という結果であるが、学科内自然発覚科目の継続、1科目に講師二人体制の実施により、理解度が低い学生へのフォローを優先。さらにミニテストの実施数を 基礎力を高めるための授業を増やしたことにより、グループワークを取り入れた授業数は昨年度より減少したが、 チーム作業の授業を通じて他者と連携してやり遂げる経験を積むことができた。 ○
	③教育活動	2	教える力の向上(どうやって身に付けさせるか)	独自学習、通信教育、セミナー参加、資格取得等に1つ以上取り組む 非常勤講師および自身の授業評価(授業評価アンケートや面談)による実践状況把握と改善 常勤/非常勤、学科の枠を超えてお互いの授業を参観して授業方法に改善を加える 授業評価アンケートによる学生満足度を向上させる	授業評価アンケートを文書で、教員実務に活用する機会を増やす。そのほか、社外セミナーを通じたスキル修得を行い、授業内容に反映、また、社内セミナーの内容を来年度の授業に反映させる。 ○ 講師二人体制により互いの授業をフォローしあうことにより自身の授業運営の参考にすることができた。授業評価アンケートの結果を踏まえて来期体制に生かす。 ○
(学務)	⑤学生支援	1	学科、学年を越えて交流し、共に協力し合う人間性の教育と達成感の共有	スポーツ祭、三心祭の準備から実施に至るまで全学生が満足し、達成感を得られる  校則、寮則などの重大違反なし 授業以外のイベントにおける遅刻・違反欠席者を減らす	学生会長のリーダーシップのもと、コストも意識しながら入念な準備を行った結果、学生の満足感および達成感が得られた(アンケート結果より)。 寮については大きな問題がなかったが、一部の学生の度重なる指導を実施。イベントにおける遅刻・無断欠席は昨年なみ。 ◎ △
	④学修成果	2	学生の資格合格率の向上	前年度以上の合格率(=合格数/受験数)を達成する	合格率、合格数ともに記録的な大幅増となった。 ◎
就職指導部	④学修成果 ⑤学生支援	1	就職内定率の確保とエプソングループをはじめとした専門性を生かせる企業・個人の能力を生かせる企業への就職支援	就職内定率95%以上の確保する。  卒業生ヒアリングの実施。 (就職活動のためのアドバイス、実態業務と現カリキュラムの比較)	就職内定率 <b>95%</b> を達成。  複数社の卒業生ヒアリングを実施した。今後も実施していく予定 ※複数企業からの主な共通コメント ⇒情報電子機械科:当校での図面についての学習が実務に生きている ⇒情報システム科:当校でのJavaの学習は時流に合っている ⇒共通:他者に論理的に伝えるための文章作成力、説明力が企業において重要である ◎
		1	募集者数の拡大	募集者数の向上  イベント参加者数の向上およびガイダンス参加者数の向上	センター試験の最後の年えもあり、入学者は昨年より減少。 △ 高校への説明会や会場ガイダンスへの参加者が昨年より減っている。一方でオープンキャンパス等に参加者数はのべ人数は昨年より増加。 △
事務局	⑧財務 ⑨法令等の遵守	1	経費削減・業務の効率化の強化	昨年度以上	人件費、経費ともに、予算を下回り、さらに経費は昨年度実績を下回っている。 ○
		2	個人情報保護体制の強化	仕組みをつくる	2018年度で体制を作り、本年度関係部門と契約を締結し、フォローアップ監査で体制を確認。 ○